

26PA-am002

薬用植物の種子発芽に関する研究－アサガオ、ノリアサ、ザクロ、ウツボグサ、ホソバタイセイ、チョウセンアザミの種子発芽に及ぼす温度の影響
○熊谷 健夫¹, 瀧野 裕之¹, 川原 信夫¹ (¹医薬基盤健康栄研・薬植セ・筑波)

【目的】国内で栽培可能な薬用植物でかつ需要が高い薬用植物を中心に、種子の発芽条件や休眠性等の情報整備を目的として、薬用植物資源研究センターで採取した来歴や生産年度が明らかな種子を材料に用い、薬用植物種子の発芽試験の標準化に向けた試験を行った。この結果、一部の植物で至適条件が得られたので報告する。

【方法】アサガオ、ノリアサ、ザクロ、ウツボグサ、ホソバタイセイ、チョウセンアザミの種子の発芽に及ぼす温度の影響を検討した。各植物の種子は試験年の前年産栽培種子を用いた。発芽床に50粒の種子を置床し、15, 20, 25及び30℃の4段階の一定温度に設定したインキュベーター内で試験を行い、照明条件は、12時間の明暗サイクルで行った。各温度条件ともに3反復で行った。

【結果および考察】発芽試験の結果、アサガオは15～20℃の発根、出葉率が高く、20℃で発根率90%、出葉率79%を示した。ノリアサは20～25℃の発根率が63～73%と高かった。ザクロでは25～30℃における発根率は70～74%であったが、15℃、20℃では発芽率が低下した。ウツボグサの発芽は15～20℃における発根、出葉率が高く、20℃では発根率79%、出葉率75%を示した。ホソバタイセイの発芽は15～20℃における発根、出葉率が高く、15℃で、発根率75%、出葉率61%を示した。チョウセンアザミでは25℃における発根、出葉率が高く、発根率78%、出葉率63%を示した。以上の結果より、各植物の最適な発芽温度は、それぞれアサガオ15～20℃、ノリアサ20～25℃、ザクロ25～30℃、ウツボグサ15～20℃、ホソバタイセイ15～20℃、チョウセンアザミ20～25℃であると考えられ、今後、上記薬用植物の効率的保存・増殖法の検討に資するものと期待される。